

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

● Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 168 2012年2月 発行

《JR発足25周年をむかえるに当たって》

危険なレールを走る今日のJR東日本!

国鉄改革を否定し、職場から組合色を「掃き捨てる」幹部

この4月でJR東日本が発足してから25年が経ちます。私達は一人の組合員も路頭に迷わせないために「国鉄改革」を成功させJRを誕生させました。この歴史的な大事業は、私達にとっては一生の思い出として、胸裏の奥に焼き付いておられます。しかし、「二〇数年経て、特に昨年あたりから「国鉄改革」を否定し、国鉄時代の官僚的体質にネジを巻く層が多くなる会社の危険な動きが、首都圏の運転職場を中心に顕在化しています。

最近の会社の動き

「職場でのいくつかの例」

● 労働協約で確認されている会議室の使用を、会社は施設管理権を盾に不許可にする(使用時に管理者がいなくてか、部外者が含まれているとの理由で会議室を組合に使わせない)

● 「仕事が終わったら速やかに退出して下さい」「制服を着て組合掲示を見るのは組合活動になる」等、常に組合員の動向や言動を監視しているようだ。

● ある支社の幹部は、社員研修の場で「今の東労組は間違っている、あげ足をとって建設的な話ができない」「俺はお前らの入社試験の点数を知っているぞ」「サラリーマンは上から言われた事を素直に聞け」等と発言した。

驚くべき「ローカルルール」是正について(案)の内実

最近になって「ローカルルール」是正について(案)という秘密裏の会社資料の存在が明らかになりました。

それは「首都圏の各職場で就業規則等のルールから逸脱する事柄」と会社が勝手に判断した4項目を是正するというものです。

しかし、その内容は国鉄時代の「マル生運動」時に国鉄当局から出された「極秘メモ」「組合を変質させる、管理者を増やす、抜擢と二項八号で差をつける、組合への便宜供与はしない、組合専従者の出ている職場を狙う……」と同一の質となっています。

要するに、国鉄改革以降、労使で議論してきた労使間の取り扱ひに関する協約を否定し、今後は「就業規則」を唯一の基準にして職場管理を行うというものです。

そのために各職場では、会社の言いなりになる「二割の意欲ある社員」を育て、他の「八割の普通の社員」を利用しながら職場管理をしていけば、職場の組合色は一掃

できるとしています。

労使紛争に付きまとうもの

今、JR東日本は、確実に危険なレールを走り始めています。それは先進的な学者や文化人も指摘しています。また歴史的な事実として、かつての日航機の墜落事故やJR西日本の福知山線事故の背景には、安全哲学に対する考え方の違いや労使問題もありました。

「赤字の国鉄」を新しいJR東日本会社へと作り変えた取り組みには、「みんなのためにみんなの力で」という当時の組合員の崇高な精神があったからこそ成し得たのです。今日のJR東日本が組合の弱体化のために「特殊教育」をした一部のポテンシャル現場長を最先頭に「出世争い」は、国鉄時代の官僚体質への舞い戻りでしょうかありません。

「国鉄改革」の一つの教訓は「本社第一主義」から「現場第一主義」への転換であったはずですが。

OBの故郷を奪うな

四〇数年間働いた職場が、利己主義の「二割の意欲ある社員」に占められ、「八割の普通の社員」の嘆きの声しか聞こえない職場になったら、私達OBは、二度と思いの出の職場に顔を出すことすら出来なくなります。

OBの心の故郷、生活を支えてくれた故郷、人間的成長をさせてくれた故郷をなくさないために、職場で奮闘する組合員を支援しましょう。

OB声の広場

脱原発の闘いの輪を!

◇先日、『チェルノブイリ・ハート』というドキュメント映画を見た。秋の闘いの一環としての平和の集いとのこと。被曝をした子供達は、数年後に小児甲状腺がんの発症が異常に多いこと。そのほかに小児白血病・機能失調・神経衰弱・貧血・呼吸器系の慢性疾患が増加している。ショックだったのは被曝した妊婦から生まれる子は、先天性異常・先天奇形の子が多い。明らかに放射性物質(放射能)が原因であると報告している。

◇今、忘れていたことを思い起こさせられ、現実を引き戻される。チェルノブイリやスリーマイル島の原発事故(爆発事故)は遠い外国での出来事であった。通り過していた。そのことが、日本の身近な福島で起こったのである。◇セシウムは風に乗って、私の頭上を通過していったのです。放射能を撒き散らし、大気を汚染し、福島の子らに災いを与えたのである。体を痛めたのである。各地に風評被害をもたらしたのである。

◇チェルノブイリでは残酷なまでの仕打ちを人間に与えた。爆発を隠蔽するために、各国大使をチェルノブイリに招待し、村人の生活を見せ、何も無い平和な村を見せて安心させた。その後、爆発を知り、「隠蔽するものだったんですね」と大使館の人がラジオで語っていた。どこの国もやることは同じだと思った。

◇人間が作ったものに、人間が支配され、人間が破壊され犠牲になっていく。資本のあくなき利潤の追求が垣間見える。真実や対策を求める国民に、政府や東電首脳は嘘や欺瞞で塗り固める。さらに許せないのは、原発プラントの輸出を国会で通したことだ。私達が支援した田城議員や今野議員は心ある議員と共に法案の採決に抗議して棄権し、筋を通した。しかし棄権した議員は党から処分を受けた。いったい私達が支持した民主党はどこへ行ってしまったのか。これも正さなければならぬ。原発の安全神話は完全に崩れた。私達は脱原発から原発の道筋を創らなければならない。

◇子供達を守るのには大人であり、親である。子や孫が安心して住める社会をつくる責任がある。同じ悲劇を繰り返さないために! 子供を守る社会を、日本を変える努力を! 今、私達に出来ることをやろう! 反原発の大きな輪を。

高崎地本OB会(N・S)

JR東日本は契約社員の雇い止めをやめよ!

東京のOB会員が新聞投稿

駅頭で「雇い止め」を受け取り「怒り」を新聞に

東京地本OBの浦川重雄さん(88歳)が「契約社員(フリーンスタッフ)の正社員化」を求めて、組合員が駅頭で配っていたチラシを見て、東京新聞(11月25日)に投稿しました。その内容は、「JR東日本は契約社員の労働意欲と人間性を心懸して、正社員化への門戸を開く」というものです。

経営破綻の国鉄を立ち直らせるために「分割・民営化」という手法をとった三本柱(派遣・一時帰休・早期退職)や広域・地域間異動など、組合員の大きな「犠牲」の上に再建を遂げ、その後「JR東労組の組合員の努力で揺るぎない経営基盤が確立されたのです。」

しかし、発足から二十五年を経たJR東日本は、会社幹部の報酬と株主配当に重点をおいた利潤追求に狂奔し、公営

企業の理念たる乗客の安全や社員的生活を護ることに「人間尊重企業」の大義を完全に投げ捨ててしまっています。

JRのような公営企業が利潤追求のために、人生の基盤を築く一番大事な時期の労働者を5年もの長い間、低賃金で酷使した上に使った後の「ゴミ」扱いをする非人間的である。法で認められているとは言え、こんな無慈悲で理不尽な契約社員制度は直ちに止め、正社員の雇用に改めさせなければなりません。

浦川さんは、フリーンスタッフ組合員の正社員化を要求して取り組んでいるJR東労組の現状の仲間を「新聞投稿」という形で支援しました。

この投稿記事は、契約社員として大きな励みになったと思います。投稿記事の全文を掲載します。

正社員への

門戸を広げて

無職 浦川 重雄 89

(千葉県浦安市)

八日、ある駅頭でJR東日本による契約社員の雇い止めを廃し、正社員としての雇用を求め、賃金や福利厚生面では正社員には遠く及ばない。それでも、当初は正社員に頑張れば正社員になれると期待感を抱かせ、勤務変更や本来業務以外への協力をにも応じてきた。それが五年で使い捨てにされると、最長五年間の契約社員ではあるが、入社当時に言われていた補助的作業でも五年間で完結する作業でもない、正社員と同じ質量をこなし、新入社員(正社員)の教育者を増やしてはいけない。

東日本大震災以降、

多くの労働者の雇用が危機的状況になつてい

までも担っている。

い。JR東日本は契約社員と真摯に向き合えない存在だ。しかし、彼らの労働意欲と人間性に心懸けて正社員への門戸を最大限広げ、人間尊重の企業理念に立ち返るべきである。



横浜地本OB会/秋季ハイキング・みかん狩り開催

横浜地本・国府津連輸区OB会 阿部 秀夫

横浜地本OB会は12月10日、小田原市曹我でハイキング・みかん狩りを行いました。

当日は、最低気温が3度で霜柱が出来たものの冷たさにはあつたものの、前日の雨が嘘のように晴れ上がった晴大に恵まれました。

沢山の連山(曹我)がくさくさの姿を見せ、南には相模湾(伊豆半島、伊豆諸島の利島まで見える晴大)と車窓、和気あいあい、本部OB会・本田副会長や各支部長や各支部の参加で、みかん狩りに参加しました。

当日は、神保会長自らがお話を先導して、下曹我駅から約一時間のハイキングと、小酒部農園にて、みかん狩りを行いました。

親睦を深めるために準備委員が前日から心を込めて仕込んでおいた豚汁や焼きそばが身も心も温まる素晴らしい味に仕上がっており、参加者から「美味しい美味い」と声が上がりました。肌寒い陽気の中では好評でした。私達OB会は、今後もお互いの親睦を深めるために交流を進めてまいります。



横浜地本OB会/みかん狩りに集ったOB会員たち

JR東労組OB会員の皆様へ

(株)鉄道ファミリーより、アフラックの「がん保険・医療保険」を昨年に引き続き、3月と9月にご案内させていただきます。

ぜひ、この機会にご家族の皆様とともにご検討のうえ、お申し込み下さい。(OB会員は、団体割引です)

★お問い合わせ先：株式会社 鉄道ファミリー
〒141-0031 東京都品川区西五反田3丁目2番13号
フリーダイヤル：0120-49-8810

お詫びとお知らせ

『本部OB会ニュース』No.167(2012年1月発行)の「新春クイズ」の応募締切日が2012年1月25日(消印有効)にすべきところ、2012年2月25日(消印有効)となっております。お詫びを申し上げますと共に、今回はそのまま2月25日(消印有効)まで有効としますので、改めてお知らせします。

従って、今年の「新春クイズ」の当選者発表は、『本部OB会ニュース』No.169(2012年3月発行)に掲載いたしますので、ご了承下さい。

エルダー奮戦記

高崎地本・籠原連輸区分会OB会 上田 俊明

私のエルダー職場

エルダー社員として出向して早や二年が経過しました。私の職場は、高崎鉄道サービス籠原事業所です。構内運転士を一年二月、その後は作業責任者として現在に至っています。

高崎線の通勤輸送を担っている車両センター籠原派出所構内での仕事です。構内運転士の時はホームでの分割・併合と入出区で、お客が乗っていないとは言え緊張します。列車がひとつたひ遅れると、臨時の入換・入出区の仕事は私のD番に「頼む」と言ってきます。社員から「サービス」名(D番)が一日の出づらさです。仕事を貰っているから、まあしょうがないか。輸送混乱の影響で仕事の密度が一段と増えるわけで、これも問題だと思えます。

作業責任者になってからは、泊まり勤務の中で皆の体調は良好か、線路横断時は左右指差喚呼・確認をしているか、保護具の着用は、と気を配り、絶え間なく入出区車両が運転される中、一番怖いのは触車事故です。即、命にかかります。だから常に注意を促します。

列車が遅れた時の的確な情報の伝達も大切です。最も神経を使います。三月十七日にはダイヤ改正が予定されています。これに伴い作業ダイヤの変更が予想されます。新たな問題が発生すると思えます。

先行きの見えない不安は「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」という施策です。その施策の一環に構内(全面)外注化があります。四月一日移行(鉄道サービス)と言われています。今は雲を掴むような状態です。サービス労組も情報を掴むのに四苦八苦のようです。JR本体の人は、「全部移行になるぞ」と言います。その挟間で右往左往しています。大幅な労働条件の変更を余儀なくされるのは間違いないと思えます。

ですから予想される事柄を抽出し、説明すべき項目を挙げてサービス労組に協力しながら労働条件や設備・環境改善等の解明要求を出していこうと思えます。今までに経験したことのない事案です。今考えていることを、安全を基軸に取り組みなければなりません。より良い労働条件を求め、安全を担保するために皆で議論し、要求の前進に向け進めていこうと考えています。

